

# 特別支援学校における教員の授業力向上を 目指した研修の在り方に関する検討

～「遊びの指導」の充実を図る授業改善プロジェクトの取組を通して～

高田屋 陽 子\*・小 山 高 志\*\*・清 水 潤\*\*\*

秋田県内の特別支援学校においては、教員の「各教科等を合わせた指導」の授業力向上を目指し、基礎研修、授業実践、授業研究会等を効果的に関連させることで、担当教員の授業力を向上させるとともに、その成果を各特別支援学校において共有し、学校全体において実践的な授業力の向上を図る「授業改善プロジェクト」に取り組んできている。平成28年度は「遊びの指導」に取り組み、指導の要点について共通実践することで指導の充実を図った。本研究では、この取組について報告するとともに、プロジェクト型研修の有効性と課題について検討した。

**キーワード：**授業力向上、研修方法、「各教科等合わせた指導」、「遊びの指導」の充実

## 1 はじめに

### 1 研究の背景

特別支援学校においては、在籍する児童生徒の重度・重複化、多様化が進み、より個々の教育的ニーズに応じた教育内容の提供や教師の指導力の向上が求められている。

こうした中、秋田県では、平成24年度から「授業改善プロジェクト」を立ち上げ、県内の特別支援学校における教員の授業力向上を目指す取り組みを行ってきた。この取組においては、授業づくりにおける基礎・基本的な事項について県内の特別支援学校の教員が共通の視点を持ちながら、授業を評価・改善していくことができるように、授業づくりの基本的な事項をまとめた冊子「特別支援教育のミニマムスタンダード」を作成し活用した。また、実際に授業を評価するツールとして、授業改善の視点を示した「授業デザインチェックリスト」「授業実践チェックリスト」を各校の授業評価に活用する取組を進めてきた。

こうした経緯を踏まえ、平成26年度からはより実践的な内容を取り入れ、特別支援学校の教育課程において特徴的な指導形態である「教科等合わせた指導」の指導の充実と担当教員の専門性の向上を目指してきた。具体的には「教科等合わせた指導」である「作業学習」「生活単元学習」「遊びの指導」「日常生活の指導」を1年毎のプロジェクトとして取り上げ、基礎的内容と実践的内容を組み合わせながら効果的な研修を行うことを目指している(図1)。

本稿では、第一著者が秋田県教育庁に在職していた際に取り組んだ平成28年度の「遊びの指導」について取り上げ、研修の有効性と課題について検討する。

	平 24	平 25	平 26	平 27	平 28	平 29	平 30 ～
①授業の基礎・基本 「特別支援教育の ミニマムスタンダード」	作成	活用					
②各教科等を合わせた指導の基礎・基本 「特別支援学校作業学習ガイド」			作業 学習				
「特別支援学校生活単元学習ガイド」				生活 単元 学習			
「特別支援学校遊びの指導ガイド」					遊 び の 指 導		
「特別支援学校日常生活の指導ガイド」						日 常 生 活 の 指 導	

図1 授業改善プロジェクトの全体計画

## 2 「遊びの指導」について

遊びは一般にそれ自体が目的であり、活動自体を楽しむ自発的な活動である。子どもは自発的な興味関心に沿い、遊びの中で主体的、意欲的に自分の周囲の環境にかかわり、心身を十分働かせて活動を作り出し発展させていくことが望ましいとされている。しかし、障害のある子どもにおいては、遊びに対する興味関心や活動性が限られている場合も多く、教師が遊びに適宜介入しながら遊びの楽しさを味わい、徐々に主体的な活動へと促していく必要がある。癸生川ら(2003)は、特別支援学校における遊びの指導の現状と課題について、「本来遊びは『内発的に動機付けられた意図的で自由な活動』とし

\* 秋田大学教育文化学部

\*\* 秋田県教育庁

\*\*\* 国立特別支援教育総合研究所

ながら、『遊びの指導』は遊びと言いながら、教育の一環として意図的、計画的に設定される指導としての遊びである。」とし、「そのため、用いられる『遊び』は、児童から生じた純然たる自由な『遊び』とはなり得ず、『遊びの指導』の中で可能な限り『遊び』がよりよく展開するためには、教師がいかにかわり、対応していくかが重要。また、素材としての『遊び』を児童に提供する上では、遊びの内容の精査や児童の発達段階を踏まえた上での立案・実施が必要である。」と述べている。

特別支援学校学習指導要領解説総則編では遊びの指導について「遊びの指導は、遊びを学習活動の中心に据えて取り組み、身体活動を活発にし、仲間とのかかわりを促し、意欲的な活動をはぐくみ、心身の発達を促していくものである。」としている。特別支援学校においては小学部の低学年を中心に教育課程上に位置づけ指導を行っているが、担当する教師が比較的限られていることもあり、その指導においては教師自身が試行錯誤しながら進めていることが多いのが現状である。

### 3 研究の目的

本研究では以下の2点についての取組を通して、効果的な研修の在り方について検討することを目的とする。

- 1) 県内の特別支援学校における「遊びの指導」において、基礎研修、授業実践、授業研究会等を効果的に関連させ実施することで、担当者の授業力の向上を目指す。
- 2) 研修実施においては指導の要点について整理し、共通実践事項を設定し、全県の特別支援学校において実践を行うことで、県内の特別支援学校全体における遊びの指導の充実を図る。

## II 実践方法

次の2点に基づいて研修を効果的に関連させ実施することで指導の充実を目指すこととした。

### 1 基礎研修会と授業実践・授業研究会の関連性の強化

研修に当っては、県内の各特別支援学校から「遊びの指導」を行う上で、中心的役割を担う担当の教師を推薦してもらい研修対象者とした。また、研修全体の内容を「①授業改善プロジェクト会議」→「②基礎研修会」→「③授業検討会・授業研究会」という流れで実施した(図2)。

秋田県では現場の授業力向上や、特別支援学校のセンター的機能の向上を目指して「教育専門監」を配置している。この教育専門監と教育委員会の指導主事が連携して、授業改善プロジェクト会議を実施し、研修の意図や進め方を確認しながら研修を実施した。基礎研修会においては、「遊び」を「発達と遊び」という視点からとらえ、その基本を押さえた上で「遊びの指導」に関する基礎・

基本的な事柄を研修内容として取り上げることに留意した。また、協議において各担当教師のこれまでの実践を振り返る中で、共通の課題について整理し、検討した要点を共通実践事項として県内の特別支援学校全体で取り組むこととした。これに関連して、これまで授業改善プロジェクトにおいて活用してきた「授業実践チェックリスト」の項目を改めて検討し、遊びの指導の要点を組み入れて作成することで指導の具体的な評価と改善に結びつけることを目指した。

また、各校で共通実践事項を意識して指導を進めることと並行して、「授業実践校」を県内の地区別に2校指定し、実際の授業提示も含めながら授業研究会を実施した。授業実践校の授業づくりにおいては、教育専門監と密に連携し、事前に授業検討会を実施し、具体的な指導内容・指導方法の検討を行いながら進めていくこととした。

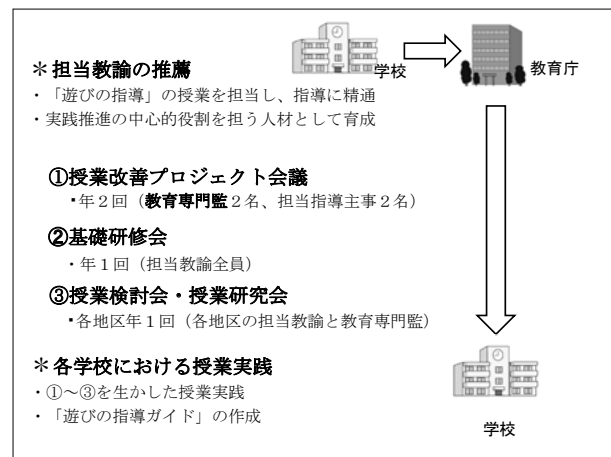


図2 授業改善プロジェクトの内容

## 2 授業研究会の進め方の工夫

指定された授業実践校において授業研究会を実施する際に、共通実践事項と関連させた授業参観のポイントを設定して行うこととした。また、提示授業について具体的な手立ての評価を含めた協議を行う【協議1】と共通の要点を踏まえて実践した自校の取組について紹介したり、話し合ったりする【協議2】を段階的に実施し、研究会で得た知見を自校の今後の取組に反映できるようにした。なお、授業実践校において授業づくりをする際には、教育専門監からも積極的に助言を得ながら授業構想を立て、事前に関係者で事前検討会を実施し、協議の要点等を確認してから授業研究会を実施することとした。

## III 結果と考察

### 1 基礎研修会を通じた共通実践事項の設定

基礎研修会の協議を通して、遊びの指導を担当する教師は、「遊び」の本来もつ自由なイメージと「遊びの指導」

で行う「指導」としての自身の捉え方に開きがあり、とまどいを感じていたことが分かった。この「遊びの指導」における教員の基本的なスタンスについて進藤らは(2015)『遊びを教える』か『遊びで教える』かにおいて、8割以上の教員が『遊びを教える』というスタンスをとりながらも、実際の授業においては局面によってその両方の内容が存在している。」ことを指摘している。そこで、基礎研修においては最初に「発達と遊び」という観点を取り上げ、子どもにとって「遊び」とはどのような意味をもつのか、また発達とともにどのような発展をしていくのかについて理解を深めた。それを踏まえた上で、各自の実践を振り返ることで障害があることで遊びが極端に限定されていたり、人との関わりが広がりにくかったりする現状があることが参加者に共有された。

次に特別支援学校で実施されている「遊びの指導」の意義や具体的な内容について取り上げ、児童側のめあてである「存分に遊ぶこと」を達成しつつ、教師側は児童の「遊びの発達」や「人間関係の広がり」について児童の実態を踏まえたねらいを設定し、指導に取り組んでいくことの重要性が確認された。こうした流れを踏まえて障害のある児童における「遊びの発達」について各自の経験を基に協議を進めることで「そもそも遊びとは教えるものなのか。」という疑問を根底にもっていた教師も「遊びの指導」の必要性を実感するとともに、指導における基本的なスタンスの共有が図られた。

また、協議において各校の実践を振り返り、指導における具体的な課題を整理したところ「適切な遊びの場の設定」とそれにかかわる「教員間の連携」の難しさ、「児童の遊びへの教員の参与の仕方」が共通の課題として挙げられた。

そこで、これらの課題に対応して次の2点について各校の共通実践として取り組むこととした。

### 1) ねらいを明確にした「遊びの場」の環境設定

授業の構想を立てる際に、遊びの指導においては児童が積極的に遊ぶことができる環境をどのように整えるかが非常に重要であると捉えた。そこで、遊びの場にどのような遊具をどのような目的で設置するのかについて学習指導案の配置図に明記することとした(図3)。この配置図は、児童の遊びを固定化するものではなく、遊びの場の機能を具体的に示すことで児童の自由な遊びを見守ったり、効果的な誘い掛けに結び付けたりする意図で行うこととした。遊びの場においては複数の教師が連携しながら指導や支援にあたっているが、遊びの場の設定やイメージを教師間で共有することで、児童個々の実態に合わせた具体的な支援が可能になった。また、遊具の効果的な配置や、安全性の確保を前提に、できるだけ児童の動きを中断せずに児童の遊びの流れを見て、状況に

合わせて教員が連携しながらかわることへの共通理解を図った。これらのことで、遊びの流れにそった自然な形で児童同士のかかわりの場面を生み出すことにつながった。

なお、配置した遊具に教師が意図的に児童を誘導するのではなく、児童の興味・関心に寄り添いながら自発的な遊びを促すことに留意した。

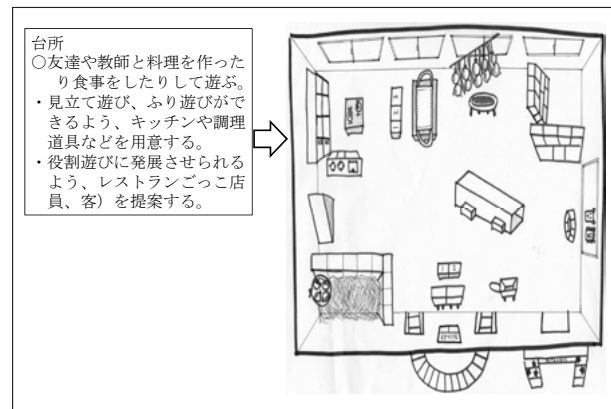


図3 学習指導案の配置図の工夫

### 2) 遊びの指導の要点を組み入れた「授業実践チェックリスト」の活用(表1)

「遊びの指導」の特徴をとらえた「授業実践チェックリスト」を作成し、遊具や教材の特徴を分析した。これまで参与の仕方に迷うことの多かった教師の支援を「遊びに寄り添う支援」「遊びのモデルとなる支援」「子ども同士の遊びをつなぐ支援」等、具体的な支援の方法を明記したことで評価の視点を明確にすることができた。このことにより次時の授業に向けて、教師間で「遊びの指導」における児童一人一人の育てたい力や必要な支援について共通理解を図り支援の方向性を確認することができた。

また、遊びの場において「遊具や教材の適切な選択や設定がなされているか」について、遊具の特徴を細分化してとらえることにより効果的な遊具の配置や、教材の活用に結びついた。

### 2 共通実践事項を踏まえた授業研究会の実施

県内の各特別支援学校において、前述の1) 2)の要点を共通実践事項として実際に遊びの指導の際に取り入れながら実践を進めた。

一方、より実践的な授業力の向上を目指して、県内のA校、B校の2つの特別支援学校を授業実践校に設定し、次のような流れで授業研究会を実施した。なお、授業提示に際しては、事前に指導主事と教育専門監、授業提示者との間で「授業検討会」を実施し、共通実践事項への取り組み内容を確認するとともに、授業者の疑問や悩みについても検討・改善しながら授業研究会を実施するよ

表1 授業実践チェックリスト【遊びの指導】

期 日		単元(題材)名	
授業者		評価者	

評価基準 : 4 (よい) - 3 (概ねよい) - 2 (やや不十分) - 1 (不十分)

教師の 基本姿勢	1	健康・体調、安全や衛生面への配慮を十分行っている。	4-3-2-1
	2	明るく、落ち着いた雰囲気をつくっている。	4-3-2-1
	3	子どもからの反応や発信に気付き、受け止めている。	4-3-2-1
	4	子どもの気持ちや思考に寄り添い、一緒に取り組んでいる。	4-3-2-1
		(1) 子どもの遊びに寄り添う支援をしている。	4-3-2-1
(2) 子どもの遊びのモデルとなる支援をしている。		4-3-2-1	
5	言葉遣いや態度など、場に適した対応をしている。	4-3-2-1	
学習の ねらい及び 活動の設定	6	題材(単元)や子どもの実態を踏まえ、本時のねらいが適切に設定されている。	4-3-2-1
	7	本時の学習内容や難易度の設定が適切である。	4-3-2-1
	8	本時の活動量や活動時間・時間配分の設定が適切である。	4-3-2-1
	9	本時の遊びに対する満足感と次時への期待感をもてるようまとめている。	4-3-2-1
環境・ 教材・ 教具等 の設定	10	積極的に遊ぶようとする環境設定が整っている。	4-3-2-1
		(1) 遊びをできるだけ制限することなく安全に遊べる場や遊具を設定している。	4-3-2-1
		(2) 遊具や教材の適切な選択や設定がなされている。 ① 遊びの目的を達成するための遊具・教材である。 ② 同一遊具・教材におけるバリエーションが豊富である。 ③ 子どもの工夫の余地がある遊具・教材である。 ④ 自分の力を出し切って遊べる遊具である。 ⑤ 繰り返し遊べる遊具である。	* 該 項 に 対 し て ○ を 付 す
	11	(3) 教師と子ども、子ども同士のかかわりを促す場を設定している。	4-3-2-1
12	個に合わせた教材・教具が準備されている。	4-3-2-1	
説明・ 教示・ 評価等	13	活動に対する見通しや意欲をもてるようにしている。	4-3-2-1
	14	要点をしぼり、具体的かつ遊びが発展するような言葉かけをしている。	4-3-2-1
	15	気付きや思考、イメージを促す働きかけをしている。	4-3-2-1
	16	T1とT2の役割分担を明確にしている。	4-3-2-1
	17	T1として全体を把握しながら、T2と連携して進めている。	4-3-2-1
	18	子どもの主体的な活動を引き出す見守りができている。	4-3-2-1
	19	子どもの頑張りや、主体性を的確に場を捉えて認めている。	4-3-2-1
コメント			

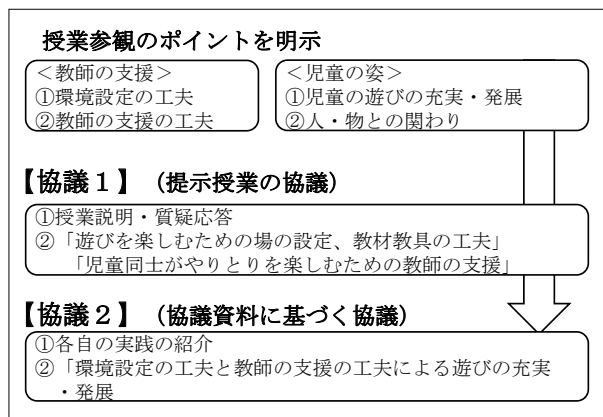


図4 授業研究会当日の流れ

うにした。また、実際の授業研究会当日の流れを以下のように工夫し実施することで効果的な研修を目指した(図4)。

### 1) 授業参観のポイントの明確化

授業参観の際、<教師の支援>と<児童の姿>において実践事項を意識した授業参観のポイントを設定し実施した。遊びの指導においては、児童の主体性や発想を生かした活動が中心となるため、児童の実態が詳しく分からない参観者にとっては授業者の支援の意図や配慮等が見えにくく、その後の授業研究会の協議の視点も曖昧になりがちである。授業参観のポイントを予め明確にすることは、他校においても共通実践している事柄に関連したポイントであることから、授業者の意図を理解しやすく、その後実施される協議において具体的な改善点に結びつくことが分かった。

### 2) 2段階の協議を踏まえた具体的な授業改善

【協議1】においては提示授業について授業参観のポイントと関連した協議題を中心に話し合いを進めた。参加者は共通実践事項があることで、自校の取組と比較しながら、より具体的な改善点について話し合いを進めることができた。これまで「遊びの指導」における授業研究会では、児童や集団の実態の説明や状況把握、遊びの内容について協議内容が終始してしまいがちであり、話し合いが深まらないという傾向があったが、共通実践事項を核として2段階の協議を実施することで、改善の要点をその後の自校の指導にどのように生かしていくのかという視点も含めた協議まで深めることができた。

また授業実践校においても、協議を通して明確になった改善点を意識して実践を積み重ねることで授業改善へとつなげることができた。

例えば、A 授業実践校においては、<よりよい環境設定>と<教師のかかわり>についてより具体的に改善し、担当教師間で共通理解が図られ授業改善が進んだ(図5)。

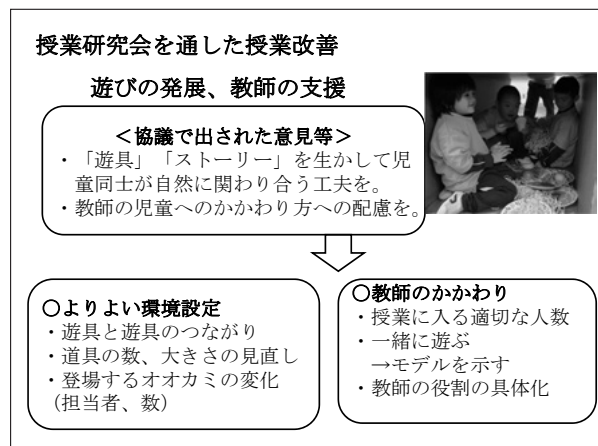


図5 A校における授業改善

また、B 授業実践校においては<遊びの発展>を促す教師の支援について、児童同士の活動や思いをつなぐ存在としての役割について明確になった(図6)。



図6 B校における授業改善

これらの授業研究会の協議を通して「遊びの指導」における次の3点の事柄が明らかになった。

- ① 「遊びの指導」においては、「遊び」そのものが充実・発展することを目的とする。その結果として総合的な力が児童に育まれていく。
- ② 遊びを通してどのような力を育みたいのか、教師間で共通理解をしながら指導を進めていくことが何よりも大切である。
- ③ 児童が積極的に遊ぼうとする環境設定、児童同士のかかわりを促す教師の意識的な対応が求められる。これらの要点を各校の次年度からの取組に生かしていくことを確認するとともに、年度末には本プロジェクトの取組の成果をまとめ、県内の教育研究発表会で発表することで成果の普及を図った。また、各校の1年間の取組をまとめた「遊びの指導ガイド」を発刊することで県内の特別支援学校において発信し、周知に努めることができた。

### 3 まとめ

本プロジェクトにおいて、基礎研修会から授業研究会の実施、各校における実践の流れを有機的に組み合わせ効果的な研修を行い、各校における指導の中心的な教師の力量を高めながら共通実践事項を全県の特別支援学校でも実施することで全体的な授業力の向上を図れることが確認された。また、参加者のモチベーションを高め、できるだけ負担感を軽減するためには、研修会や授業研究会で得た知見が、現在実施している自校の取組に自然な形で反映されていく仕組みづくりが特に重要であることが分かった。

表2 共通理解を図るための取組のポイント

- 基礎研修会や授業研究会で得た要点を自分の授業に置き換え実践に取り入れる。
- 研修会の要点を自分なりにまとめ、学部研究会や学年部の話し合いで報告する。
- 単元・題材ミーティングで要点を活用し、担当の教師間で共通理解をして授業づくりをする。
- 要点を意識しながら自分でも実際に授業提示をし、授業研究会を通して伝える。

また今回の授業改善プロジェクトにおいては、研修に参加した各校の教師の授業力向上を図ることはもちろんだが、その成果を自校において共有し活用することを目的の一つとしている。それぞれが研修を通して学んだ基礎的・基本的な内容を各校において報告するとともに、実際に自身が授業を提示することによって共通理解を深めていくことが明らかになった(表2)。

本プロジェクトにおいては、まず基礎研修会において基礎的・基本的な内容を確認するとともに、各校の担当者の悩みや課題についてじっくり協議を行い、要点を明確にして共通実践事項を設定した。その後、各校で実践を進めながら、実際に授業研究会を通して具体的な改善点について話し合った。さらに実際に授業参観を踏まえて協議を行うことと、自校の実践に置き換えて自分の実践を振り返ることで具体的な授業改善につながっていったと考えられる。このようなことから、今回実施した一連の流れで基本的な理論的背景を確認しつつ、授業研究会を通して自校の取組に具体的に反映させていくプロジェクト形式の研修の進め方は担当教員の実践力を高めるのに有効であったと言える。

課題としては、授業研究会を行った時期が11～12月ということで、協議で得た改善事項を自校の取組に生かす時期が年度後半になってしまったことが挙げられる。また、協議を通して年間指導計画の重要性も明らかになり、今後は今回の研修の要点を年間指導計画の作成

に生かす上からも、年度の早い時期から実施していくことが有効だと考える。

平成29年度、本プロジェクトは「各教科等合わせた指導」のまとめとして「日常生活の指導」について取り組むこととなる。平成28年度の進め方で得た知見を活かしながら、今後も効果的な研修の在り方について検討を進めていきたい。

#### 【引用参考文献一覧】

- 文部科学省(2006):特別支援学校学習指導要領解説総則編(幼稚園部・小学部・中学部)
- 文部省(1993):遊びの指導の手引
- 秋田県教育庁特別支援教育課・秋田県総合教育センター(2013):特別支援教育のミニマムスタンダード
- 秋田県教育委員会(2017):特別支援学校遊びの指導ガイド
- 進藤拓歩・今野和夫(2015):知的障害特別支援学校における「遊びの指導」についての教師の意識—「遊びの指導」の意義及び課題を中心に—秋田大学教育文化学部研究紀要, 70, 125-141.
- 仲矢明孝・中尾果歩・竹内愛(2014):「遊びの指導」の授業における児童同士のかかわりと教師の支援岡山大学大学院教育学研究科研究収録, 156, 15-21.
- 癸生川義治・郷右近歩・野口和人・平野幹雄(2003):知的障害養護学校における「遊びの指導」の現状と課題. journal of health & social services, No.2, 83-94.

#### Summary

Aiming at improving the teaching skills of teachers in “instruction including subject teaching,” special needs schools in Akita Prefecture work on improving the teaching skills of subject teachers by effectively associating with the basic training, teaching practice, teaching seminars etc. The results are shared with each special needs school, so that the whole school can address the “teaching improvement project” to improve the practical teaching skills. In 2016, they focused on the theme “teaching play,” in which the essential points of instruction were shared to be practiced, to enhance the instructions of teachers. This research reports on the efforts of the project and discussed about the effectiveness and challenges in project-oriented trainings.

**Keywords:** improvement of teaching skills, training method, “entire teaching skills for each subject,” enhancement of “teaching play”

Discussion on the state of trainings aiming to improve teaching skills of special needs school teachers: Through the efforts of the teaching improvement project aiming to enhance “teaching play”

\*TAKADAYA, Yoko, Faculty of Education and Human Studies, Akita University

\*\*OYAMA, Takashi, Akita Prefectural Education Board

\*\*\*SIMIZU, Junn, National Institute of Special Needs Education